

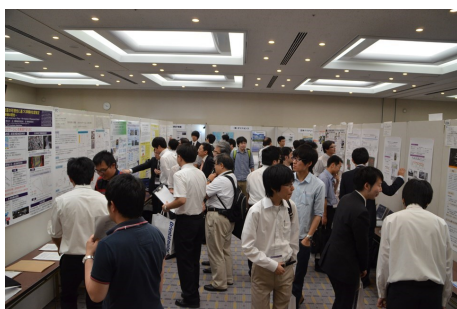
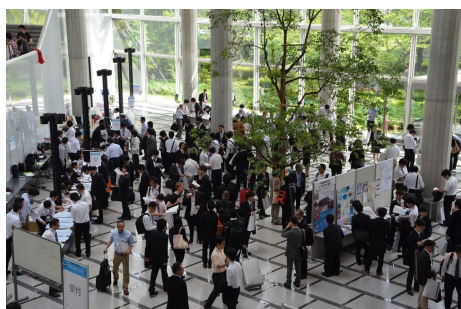
ROBOMECH2013 開催報告

実行委員長 坪内孝司(筑波大)

ROBOMECH2013 in Tsukubaは「社会に浸透するロボティクス・メカトロニクス」をテーマに、2013年5月22日～25日の日程で開催いたしました。今回はロボティクス・メカトロニクス部門の発足25周年も記念した学術講演会であり、ポスター発表件数1148件、参加者総数1764人となりました。23日と24日に行われた学術講演会本体のポスター発表も例年のごとく活発な討論が行なわれ、盛況のうちに終了いたしました。発足25周年を記念する特別行事として、大須賀公一先生には「ロボット制御学における“そもそも”のすゝめ」と題する独自の観点からの制御に関するご講演を、また、長谷川勉先生には「ロボットのための作業環境モデリング-25年間の進展と展望-」と題した、この四半世紀を振り返りながらの興味深いお話を頂きました。

当講演会のテーマはつくば市において生活支援分野など

の次世代ロボット産業の創出を目指した「ロボットの街つくば」推進プロジェクトから発想したものです。このような地域での講演会開催に鑑み、市原健一つくば市長には行政側からのロボット関連産業創出アプローチについての特別講演をして頂きました。さらに、移動ロボットによるつくば駅から会場までの道案内デモ走行や、モビリティロボット実験特区での実証実験用機体の体験搭乗も大変な好評を博しました。最終日の25日には市民向け企画として、つくば市内の小中学生向けに市内の研究機関によるロボットのデモ展示と、「ロボットの目に注目！-ロボットの目が見ている世界のお話」と題するセミナーを開催しました。来場の小中高生が、動くロボットの展示に目を輝かせていたのが印象的でした。今回の講演会開催にご協力を賜りました皆様に、心より感謝申し上げます。



ROBOMECH 2013 会場の様子

部門賞・部門一般表彰報告

去る2013年5月23日(木)に、つくば国際会議場で開催されましたロボティクス・メカトロニクス講演会2013にて、前年度の功績・業績

を讃えまして各賞の表彰式が行われました。各賞の内容と受賞者を以下にご紹介します。

1. 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門賞

日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門では、ロボティクス・メカトロニクス分野の活性化をはかる一環として、以下の3部門賞を設けております。

(1) 部門功績賞

ロボティクス・メカトロニクスの分野で、研究、教育、学会活動の面で多大の影響を及ぼし、国際的評価が高く、かつ有力な著書、論文などを著している個人または団体(法主体)に贈る。

(2) 部門学術業績賞

ロボティクス・メカトロニクスの分野で萌芽的あるいは発展性のある学術業績を挙げた個人または団体(法主体)に贈る。

(3) 部門技術業績賞

ロボティクス・メカトロニクスの分野で萌芽的あるいは発展性のある技術開発面での業績を挙げた個人または団体(法主体)に贈る。

(2 ページに続く)

〈各賞の選考プロセス〉

部門運営委員会の指名による表彰委員会(委員長は副部門長が担当)が部門賞候補者の中から日本機械学会部門賞通則第5項に基づく人数以内を選考し、推薦理由を付して部門長に報告した後、最終決定をロボティクス・メカトロニクス部門運営委員会が行い、部門協議会を経て理事会に報告するものでございます。

〈部門賞候補者の推薦方法及び時期〉

部門賞の受賞候補者は原則として日本機械学会会員とします。部門賞募集は公募によるものとし、推薦または本人または団体(法主体)よりの申請を部門長宛でご提出願います。募集方法は、部門ホームページや部門主催講演会などで公示致しますが、推薦締切は原則として当該年度の10月末日までとなっております。

部門賞

部門功績賞	大隅 久 (中央大学)
部門学術業績賞	山田 陽滋 (名古屋大学)
部門技術業績賞	柴田 崇徳 (産業技術総合研究所)
	浦 環 (東京大学)

2. 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門一般表彰

ロボティクス・メカトロニクス分野の活性化をはかる一環として、以下の3つの一般表彰を設けております。

(1) 25周年部門功労表彰

部門の設立・運営・活性化に多大な貢献をした個人に対して行う。

(2) ROBOMECH表彰

当該年度のロボティクス・メカトロニクス部門主催講演会・シンポジウムなどにおいて、研究内容に対して高い評価を得た著者全員に対して行う。

(3) ベストプレゼンテーション表彰

当該年度のロボティクス・メカトロニクス講演会において、プレゼンテーション面に対して高い評価を得た個人に対して行う。

(4) 部門貢献表彰

部門への著しい貢献が認められる個人、または団体に対して行う。

(5) JRM表彰

Journal of Robotics and Mechatronics に掲載された優秀な論文の著者全員に対して行う。

〈各賞の選考プロセス〉

部門運営委員会の指名による表彰委員会(委員長は副部門長が担当)が部門表彰候補者の中から適格者を選考し、推薦理由を付して部門長に報告した後、最終決定をロボティクス・メカトロニクス部門運営委員会が行い、部門協議会を経て理事会に報告するものでございます。

〈表彰候補者の推薦方法及び時期〉

部門一般表彰の表彰候補者は原則として日本機械学会会員とします。ベストプレゼンテーション表彰は当該年度のロボティクス・メカトロニクス講演会の実行委員会が候補者を選考し、開催日から5ヶ月以内に表彰委員会に推薦致します。ROBOMECH表彰、及び部門貢献表彰候補者は公募によるものとし、推薦または本人よりの申請を部門長宛でご提出願います。募集方法は、部門ホームページや部門主催講演会などで公示致しますが、推薦締切は原則として当該年度の10月末日までとなっております。なお、ROBOMECH表彰で対象とする講演会・シンポジウムは前年度の10月1日以降、当該年度の9月30日までに開催されたものとなっております。

25周年部門功労表彰

主な功績・業績	受賞者
ロボメカ部門の設立に貢献, 1996年度(第74期)部門長など	山藤 和男(電気通信大学)
ロボメカ部門の設立に貢献, 1991年度(第69期)部門長など	福田 敏男(名城大学・名古屋大学)
ロボメカ部門の設立に貢献, 1988年度(第66期)の初代部門長, 翌年の89年度(第67期)部門長と通算二期の部門長の他, 部門の設立・運営・活性化への多大な貢献	谷江 和雄(故人(元)首都大学東京)

ROBOMECH表彰

講演題目	受賞者
細胞シートの顕微鏡下非接触弾性センシング(第17回ロボティクス・シンポジウム)	田中信行(東京女子医科大学), 近藤誠(早稲田大学), 大和雅之(東京女子医科大学), 岡野光夫(東京女子医科大学), 金子真(大阪大学)
高速ビジョンを用いた実時間マイクロPIV システム(第17回ロボティクス・シンポジウム)	小島基史, 高木健, 石井抱(広島大学)
双腕ロボットによるピックアンドプレース動作計画(第17回ロボティクス・シンポジウム)	原田研介, フアソ・トレア(産業技術総合研究所), 辻徳生(九州大学), 永田和之, 山野辺夏樹, 中村晃, 河井良浩(産業技術総合研究所)
ロボットアームの等速度運動による紐の簡易変形モデルと形状制御(第17回ロボティクス・シンポジウム)	山川雄司(東京大学), 並木明夫(千葉大学), 石川正俊(東京大学)
ハイパワー・超精密オンチップロボットによる細胞の力計測(ROBOMECH2012)	佐久間臣耶, 新井史人(名古屋大学)

ベストプレゼンテーション表彰

講演題目	受賞者
細胞温度計測のための単一蛍光マイクロセンサの細胞内導入	丸山央峰(名古屋大学)
多軸加速度センサの主軸方向と感度の同定手法—センサ姿勢変更角度の主軸方向算出値への影響—	木村仁(東京工業大学)
把持作業の自由度を用いた障害物環境下での物体把持動作計画	相山康道(筑波大学)
マイクロロボットを用いたクロコオロギへの能動的相互作用による行動誘引	川端邦明(理化学研究所)
ゴムを利用したパンタグラフ型跳躍ロボット	望山洋(筑波大学)

部門貢献表彰

主な功績・業績	受賞者
ロボティクス・メカトロニクス講演会2012実行委員長	伊藤友孝(静岡大学)
第17回ロボティクス・シンポジウム実行委員長	稲垣詠一(山口東京理科大学)

JRM表彰

主な功績・業績	受賞者
Curved Type Pneumatic Artificial Rubber Muscle Using Shape-Memory Polymer(Vol.24, No.3, pp.472-479, 2012)	高嶋一登(九州工業大学, 理化学研究所), 則次俊郎(岡山大学), Jonathan Rossiter(ブリストル大学, 理化学研究所), 郭士傑(東海ゴム工業(株), 理化学研究所), 向井利春(理化学研究所)

日本機械学会 ロボティクス・メカトロニクス部門新ジャーナル “ROBOMECH Journal”のご案内

<http://www.jsme.or.jp/rmd/Japanese/Journal/>

2014年より、ロボティクス・メカトロニクス部門の欧文誌“ROBOMECH Journal”がSpringer社よりオープンアクセスの電子ジャーナルとして創刊されます。

本ロボメカ部門ではこれまで、富士技術出版社とJournal of Robotics and Mechatronics (JRM)を共同編集して参りましたが、このJRMの共同編集を、2013年をもちまして解消いたしました。ROBOMECH Journal は正式な日本機械学会の部門欧文誌であり、また、世界中からWebで自由にアクセスできる利点をあわせ持ち、多くの研究者の目に触れるチャンスがあります。なにとぞ積極的な投稿をお待ちしております。

編集委員長

福田敏男(名古屋大学・名城大学)

副編集委員長

新井健生(大阪大学) 金子 真(大阪大学) 長谷川泰久(筑波大学)

Springer社が発行するオープンアクセスの電子ジャーナルですので、世界中の読者の目に止まりやすくなる、採択後直ちにWeb上に掲載されるので投稿から掲載までの期間が短くなる、など、多くのメリットがあります。なにとぞ積極的な投稿をお待ちしております。

論文投稿規定などの詳細情報は、下記URLをご確認ください。
<http://www.springer.com/engineering/robotics/journal/40648>

ROBOMECH Journal の目指すところ:

本誌はロボティクス・メカトロニクス分野における最新技術及び実践活用を紹介する、概観的・方法的・実践志向の各種論文を掲載します。

本誌の目指すところは、ロボティクス・メカトロニクス分野における最新技術及び実践活用です。本分野は日常品から最新宇宙ロボティクス部門まで幅広く成長しております。ロボティクス・メカトロニクスの明確な定義が難しいのは皆様ご周知の通りです。多くの方が、数限りなく定義をされております。

しかし、いずれが最良かは言い難いのは、メカトロニクスが絶えず進化しているからです。本誌ではメカトロニクスを試みとして「機械工学と情報科学(電子知能コンピュータ制御の設計、商品製造工程まで含む)の共同統合」と定義します。本誌はロボティクス・メカトロニクス分野の理論・方法を網羅する実践的要素まで網羅します。次の12分野を含みますが、必ずしもこれらに限定される訳ではありません。

- 1) Modeling and Design
- 2) System Integration
- 3) Actuators and Sensors
- 4) Intelligent Control
- 5) Robotics
- 6) Manufacturing
- 7) Motion Control
- 8) Vibration and Noise Control
- 9) Micro/Nano Devices and Optoelectronics Systems
- 10) Automotive Systems
- 11) Applications for Extreme and/or Hazardous Environments
- 12) Other Applications

International Journal of Robotics Mechatronicsは、日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門が共同編集をしておりました富士技術出版発行の欧文誌です。2013年をもちまして共同編集を終了いたしました。詳細およびバックナンバーについては下記URLをご参照下さい。

富士技術出版 (<http://www.fujipress.jp/JRM/index.html>)

今後の行事の案内

- 移動ロボットを動かしてみよう！—小学生を対象とした親子ロボット教室—
2013年10月26日(土)岡山理科大学40周年記念館5階(岡山)
- 東海地区特別講演会「車輪型移動装置の操作支援技術」
2013年11月8日(金)豊橋技術科学大学総合研究実験棟9階セミナー室(豊橋)
- 親子ロボットスカベンジャー工作教室
2013年11月10日(日)千葉工業大学津田沼キャンパス新1号棟306室(習志野)
- 見学会「Hitz日立造船(株)堺工場」
2013年11月14日(木)Hitz日立造船(株)堺工場(大阪)
- 九州地区競技会「フューチャードリーム！ロボメカ・デザインコンペ2013」
2013年12月7日(土)ロボスクエア(福岡)
<http://www.ip.kyusan-u.ac.jp/J/kougaku/tb/sakaki/rmdc2013q/>
- pico-EV・エコチャレンジ2014
2014年3月1日(土)神奈川工科大学 第二体育館(厚木)
<http://www.nbu.ac.jp/~picoev>
- 第19回ロボティクスシンポジウム
2014年3月13日(木)～14日(金)有馬グランドホテル(神戸)
<http://www.robotics-symposia.org/19th/>
- 英語力強化合宿 Academic Boot Camp
2014年3月10日(月)～11日(火)幕張セミナーハウス(習志野)

ロボティクス・メカトロニクス講演会2014 (ROBOMECH2014 in Toyama) 開催案内

開催日 2014年5月25日(日)～28日(水)

会場 富山市総合体育館(富山県富山市)

<http://jsme.or.jp/rmd/robomech2014/>

実行委員長 柴田崇徳(産業技術総合研究所)

当部門主催、ロボティクス・メカトロニクス講演会2014は、2014年5月25日～28日に富山市総合体育館(JR富山駅北口から徒歩5分)にて「社会に役立つロボティクス・メカトロニクス」をテーマに開催します。

5月25日はワークショップ・チュートリアル、公開講座等を予定しています。ポスター講演、企業展示等については、しっかりとディスカッションをしていただくために、26日から28日までの3日間いたします。

富山県は、五箇山の世界遺産、立山連峰の大自然、富山湾の海の幸等、歴史や文化を楽しめるだけでなく、産業向けの電子機械関連企業や製薬関連企業が数多くあります。テクニカル・ツアーでは、参加者の方々にこれらの企業を様々な体験していただく予定です。多数の皆様のご発表・ご参加をお待ちしております。

第91期ロボティクス・メカトロニクス部門

部門長 新井史人(名古屋大)
副部門長 松日楽信人(芝浦工大) 幹事 原田香奈子(東大)
編集: 広報委員会
委員長 木村仁(東工大) 副委員長 中嶋秀朗(千葉工大)
委員 山脇輔(防衛大) 幹事 伊達央(防衛大)
部門HP: <http://www.jsme.or.jp/rmd/>

ロボメカ部門関係アドレス

■部門ホームページURL

<http://www.jsme.or.jp/rmd/>

■部門広報委員会メールアドレス

rmd@jsme.or.jp